

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

賢いヒトの心はどのようなように
進化してきたのだろうか？

『あなたの中の動物たち』

— ようこそ比較認知科学の世界へ —

渡辺茂 (名誉教授) 著
教育評論社 / 1800円 (2020年10月)



古来、ヒトは「万物の霊長」と自称し、自分たちを他の生物より上位の特別な存在だと位置付けてきた。しかし、ほんとうにそうなのだろうか？ さまざまな動物の行動実験や脳の研究を通してヒトと動物の心を見つめてきた著者は、ハトにピカソとモネの絵を区別させることに成功して、1995年イグ・ノーベル賞を受賞。本書では、ヒトならではの能力「記憶力」「論理的判断」「道徳」「自己認知」「美」などに考察を加え、ヒトの心固有の特徴とそれがどのような動物の心由来するのかわかりやすく書かれているが、深い学問の蓄積を感じさせる一冊だ。

教職員執筆の新刊

● 岡山裕 (法学部教授) 著

『アメリカの政党政治―建国から250年の軌跡』

中公新書 / 880円 (2020年10月)

● 小川剛生 (文学部教授) 著

『徒然草をよみなおす』ちくまプリマー新書 / 800円 (2020年10月)

● 小熊英二 (総合政策学部教授) ほか編

『日本は「右傾化」したのか』

● 慶應義塾大学出版会 / 2000円 (2020年10月)

● 島津明人 (総合政策学部教授) 編著

『職場のポジティブメンタルヘルス3―働き方改革に活かす17のヒント』

誠信書房 / 1900円 (2020年10月)

● 竹森俊平 (経済学部教授) 著

『WEAK LINK (ウィークリンク)―コロナが明らかにしたグローバル経済の悪夢のような脆さ』日本経済新聞出版 / 1800円 (2020年10月)

● 田村次朗 (法学部教授) ほか著

『決める力―リーダーシップを鍛える対話力』

東京書籍 / 1500円 (2020年12月)



慶應義塾この一冊

『Thinking Baseball』

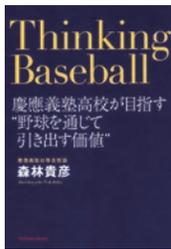
― 慶應義塾高校が目指す

『野球を通じて引き出す価値』

森林貴彦 (幼稚舎教諭・高校野球部監督) 著

東洋館出版社 /

1400円 (2020年10月)



コロナ禍の2020年、春・夏の甲子園が中止となり、多くの球児が悔しさを噛みしめた。一方で高校野球というものを関係者があらためて見つめ直す機会にもなった。まさにそのタイミングで出版された本書は、高校野球部を指導する著者の「考える野球」を解き明かした一冊。2018年度、チームを春・夏連続甲子園出場に導いた著者だが、目先の勝利や甲子園出場にはこだわっていない。選手たちが自ら考える力を育むことを最も重視する。著者の一人一人の可能性を大切にする指導方針は、これからの高校野球の在り方に一石を投じるはずだ。